



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/13 (月)	+ 900	+ 5,500	+ 6,400	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 54,500	CP等買入 + 4,000 国債買入 + 200	
2/14 (火)	+ 1,000	▲ 9,000	▲ 8,000	流動性供給 源泉所得税揚げ			日: GDP (4Q) 鉱工業生産 (12月) 米: CPI (1月) I=I圏: GDP (4Q)
2/15 (水)	トン	+ 76,000	+ 76,000	年金定時払い			米: 小売売上高 (1月)
2/16 (木)	トン	+ 5,000	+ 5,000				日: 貿易収支 (1月) 米: PPI (1月)
2/17 (金)	▲ 1,000	▲ 19,000	▲ 20,000	国債発行 (5年)	被災地支援 ▲ 1,300		米: 景気先行指標総合指数 (1月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初514兆1,100億円から始まった。その後、国債発行や国庫短期証券の発行・償還等があったものの同残高は小幅な変動に留まり、515兆2,300億円で越週した。

無担保コールON物は週初、大手行の調達ニーズ減退を主因に出合水準が低下し、同加重平均金利は前営業日対比▲0.009%の▲0.021%から始まった。その後も低下基調を辿り、9日には▲0.036%となった。一方、週末となる10日は3日積み要因から地銀業態を中心に調達ニーズが強まり、▲0.034%で越週した。

ターム物は、オファーサイドの放出ニーズが限定的であり、閑散としていた。

来週の主な予定は、国内では14日にGDP (4Q) と16日に貿易収支 (1月)、海外では14日に米CPI (1月分)、16日に米PPI (1月) が公表される。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許6C取引は、週を通して▲0.11%~▲0.10%の狭いレンジで取引された。短国3m入札日となる10日の取引では、▲0.10%近辺の出合いから始まり、後場引け近辺で▲0.09%まで上昇した。

SC取引は2年435~444回債、5年146~155回債、10年350~369回債、20年179~183回債、30年65~77回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約5,000億円で、週間償還額 (約6,200億円) を下回った。発行市場は一部で大型案件が見られたものの、期日を迎える案件も少なく落ち着いた展開であった。発行残高は先週末時点の27兆8,731億円から9日時点で27兆8,748億円に増加した。発行レートは、期内案件は概ね落ち着いていたが、期越え案件等は今後の日銀政策修正への思惑も強く金利目線の高止まりが続いている。8日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.003% (前回0.005%)、平均落札レート0.006% (前回0.029%) と案分レート・平均落札レート共に前回比で低下した。

来週の週間償還額は、約8,100億円となっている。発行市場は5・10日スタート絡みの発行が見込まれることからやや活況を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

2月9日の6M (1137回債) の入札は、最高落札利回り△0.1148% (前回債△0.0685%)、平均落札利回り△0.1130% (前回債△0.1007%) となり、10日の3M (1138回債) の入札は、最高落札利回り△0.1545% (前回債△0.1489%)、平均落札利回り△0.1649% (前回債△0.1589%) となった。

来週は16日に1Y、17日に3Mの入札が予定されている。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01